# 授業で使えるグループワーク素材　Ⅰ－４

「災害時シミュレーション」(45～50分) 対象／小学生用（４－６年）・中学生用・高校生用

1.プログラムの趣旨

　 災害を想定したシミュレーション（模擬的な体験）を通して、自分のこととして捉えることで、想像力、考える力を養う。

2.ねらい

　避難を伴う津波災害、洪水等において、避難する際に、持っていくモノは、人・家族によって異なり、事前に

準備することが大切である。そして、準備ができていない場合は、モノを持っていくことよりも、いのちを守ることを最優先に、避難することが重要であることを学ばせたい。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 段階 | 学 習 内 容 | 教師の支援・指導上の留意点 |
| 導入（５分） | （Power Pointにて進める）①沈黙の時間（１９０秒）（目を閉じ、私語はしない） | ・グループ毎に机を寄せる。・沈黙している時間を使って、シミュレーションに必要なアイテム（スーツケース、所持品のイラスト）が入った封筒を、グループ毎に１セットを配付する。 |
| 展開（２５〜３０分） | （Power Pointにて進める）②避難に必要なモノを考える。③選んだモノについて話し合う。　生きるために必要なモノを考える。 | ・想定の場所や時刻等の状況は、個別に設定する。・グループ毎で活動する。・活動時間は１９０秒とし、活動中に、「時間がないよ！」「急いで！」などの声がけによって緊迫した状況を与えることができる。備考・アイテムが用意できない場合は、選ぶ個数（６個ほど）を決めて展開することも可能。・なぜこのモノを選んだか、なぜこのモノを選ばなかったかを発表する。（プリント、模造紙、ふせん紙などを使って考えをまとめることも可能） |
| まとめ(１５分) | ④まとめをする。 | ・沈黙の時間を発表させる。・沈黙の時間と活動の時間は、同じ１９０秒であったこと、時間の感覚は、その時の状況によっても異なって感じることを伝える。・東日本大震災の福島県いわき市小名浜では約１９０秒、地震の揺れが観測されたことを伝える。（震度６弱が観測され、震度４以上の揺れが約１９０秒続いた）・人、家族によって、 備えておくべきモノは違うことから、事前の準備と、事前に家族と相談しておくことが必要であることを伝える。・モノを持っていく準備ができていなければ、自分のいのちを守る（避難する）ことが、最も優先されることを伝える。備考・DVDの A-15「命を守るための備え」（備蓄編）を視聴させてもよい。・小学生用（４−６年）、中学生用・高校生用の「ワークシート７」を併せて活用してもよい。 |

3.展開

※本プログラムのPowerPointデータ、スーツケース・所持品のイラストは付属CD-Rに収録されています。